

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 経済学部 3年

参加プログラム: UC Berkeley Summer Sessions 派遣先大学: UC Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

<http://berkeley.edu/>参照

参加した動機

自分が活動する団体での経験や国際的な舞台で働きたいという自分の将来を考慮した際、短期間ではあるもののアメリカの大学を経験することは、自分の人生にとって価値のある行動だと判断した。また UC Berkeley という名高い大学に各国から集まる優秀な学生は、自分に刺激と成長、また将来への新たな展望をもたらしてくれると考えた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

分からないことなどは自分から大学にメールして確認すること。時差はあるが、すぐに丁寧な返答をしてもらえる。また本部国際交流課の担当の方も手続きの手伝いをして下さった。手続きの量も多いため早め早めに準備するのが良い。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

プログラム応募締切り直前に参加を申し込むと必要書類が揃わず、ビザ申請が遅れるため、早めの応募が望ましい。ビザの面接予約は一ヶ月以内に出国の場合、優先して直近の日程を選べるが、それでもビザ発行が間に合わない場合もありうるので注意すること。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

市販の風邪薬等を購入。その他は特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIU 損害保険会社(生協により紹介された 16000 円程度の留学生向け保険プラン)

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

プログラムに直接関係はないが、TOEFL 向けの学習などを行った。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

自分は国際免許を取っていたので、滞在中レンタカーなどでの移動ができ、大変便利だった。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

ESL Business vocabulary

Sports and American culture

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

<ESL Business vocabulary>

20人弱の少人数講義。小さな教室で双方向的な授業を行う。毎回少量の宿題が出る。

毎回のグループワークや好きな企業に関するプレゼンテーション、模擬ジョブインタビューなどを行った。

<Sports and American culture>

30人ほどの講義形式授業。予習は小説の一部や記事等を集めたオリジナルテキストの指定部分を読むこと。

最終週にレポートの提出が課される。また授業の理解を図るための中間試験、期末試験がある。

④学習・研究面でのアドバイス

サマーセッションという短期間なので、予復習もするが、授業でできる限り多くのことを吸収するよう意識した。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

せっかく参加するのなら初日から積極的に話したほうが良い。間違いを気にしたり恥ずかしがるのは時間とお金の無駄にしている。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

申込み期間が遅かったため寮やその他宿泊施設に直接メールした。寮の空きがなかったため、前半は YMCA の宿泊施設に後半は Travelodge というホテルに泊まった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

カリフォルニアの名と裏腹に朝晩は寒く長袖は必須。交通機関は Student Card を持っているバスが無料な上、BART が便利で苦労はしなかった。大学周辺に飲食店が多く食事に困ることも無かった。また支払いには主にクレジットカードを使った。(クレジットカードは紛失した時のために2枚用意した。)

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

駅周辺や南地区はホームレスなども多く、やや治安が悪いため、夜間は気を付けた方が良い。宿泊施設を選ぶ際、街灯が少ない地区は出来るだけ避けた方が良い。

医療機関に掛かることは無かったが、やや体調を崩し、日本から持っていった風邪薬を服用した。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃:約 20 万円(プログラム後に旅行をしたため周遊券)、授業料:約 20 万円、教科書代:約 2000 円、宿泊費:約 10 万円、その他費用(VISA 申請費用含む):約 10 万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

2013 年度超短期(3 ヵ月未満)海外留学等奨学金から 8 万円。本部国際交流課より紹介頂いた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末や授業後に ESL のクラスメートとスポーツ観戦や観光を行った。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

プログラム開始前は大学とメールでやり取りを行い、丁寧に対応して頂いた。またプログラム開始後は、ESL のクラスの先生が学習面に限らず生活面でも熱心にサポートして下さいました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

あまり利用する機会はなかったが、図書館、スポーツ施設は充実していた。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プレゼンテーションやグループディスカッション、面接練習など多様なタスクを通じて英語運用能力を高めることができた。また、さまざまなバックグラウンドを持つ同世代と話すことで、自分の将来について深く考えさせられ、今までに無い視点を得ることができた。

②参加後の予定

就職活動及びアメリカ大学院進学、短期留学を検討中

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学する、しないで迷うなら参加しましょう。行った人にしか分からないことがたくさんあります。サマーセッションに参加するならばできるだけ期間の長いセッションをお勧めします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

<http://berkeley.edu/>

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):総合文化研究科 修士 2年

参加プログラム:UC-Berkeley Summer Session E 派遣先大学:UC-Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
⑤.民間企業(業界:化学メーカー) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

アメリカの代表的な州立大学 UC のひとつ。数多くのノーベル賞受賞者を輩出。近くの Stanford と比べると、自由な雰囲気。FreeSpeechMovement 発祥の地であり、広々としたキャンパスのところどころに歴史も感じられる。

参加した動機

就職先が、海外展開を積極的に行っている日系メーカーであることから、将来的に、英語を使えた方が得であり駐在なども選択肢のひとつに入りたいと考えていたため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

web の登録、根気がいります。あと、研究室に所属している人は、指導教官のサインがもらえる状況を作っておきましょう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

流れとしては、DS-160 をオンラインで登録・印刷してから、Visa,I-20 を申請するための面接を受ける順です。直前(2, 3 週間前)だと面接の予約がとれなくて焦ります。分からない場合はとにかく大使館に電話。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカードの付帯保険に損保ジャパン OFF を加えました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEIC を事前に受けておきました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

8 月のサンフランシスコ、パークレーは寒い+乾燥している。現地でパーカー、スウェット、トレーナーを買って着込んでいました。日本の 10 月くらいの感じだと思います。体調管理が最重要です。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

●ESL(business vocabulary) 2units

●ESL(California history) 1units

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

business vocabulary は毎日宿題がでた。所要時間は 1~2 時間くらい。企業に関するプレゼンと job interview の roll-playing があつた。Text, 宿題にそって先生と会話しながら授業が行われた。

California history は、期待以上に面白い内容だった。せっかく SF にいるのだし、現地の歴史を知ることは重要だと思う。スペイン人の侵略、GoldRush や Earthquake の話を学んだ。博物館へ行ったり、トピックを決めてプレゼンをしたりした。

④学習・研究面でのアドバイス

構えることはないと思います。ただ、日本の授業に慣れている人は、授業に参加する事が難しいですが、自信をもって会話をすればよいと思います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

先生の英語は聞き取れても、一緒に受講している他の国から来た人の発音は聞き取りづらかったので会話の流れが分からないことがありました。その辺も含めていい経験になりました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ルームシェア。4人で割って、3週間で¥10万くらい。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
とにかく寒く、乾燥している。厚手のパーカーは必須。お金はほぼクレジット。ただし、上限をあげることを忘れずにした方がよい。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は悪くはないが良くもない。路上で手錠をかけられている人もいた。何かと忙しく、食事をとるのも一苦労なので、健康管理は最優先にしておくべき。風薬など常備薬は持って行ったほうがよい。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券 15万、授業料 8万、教科書 1万、家賃 10万、などで奨学金を換算しない場合計 50万くらい。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSOの8万の奨学金

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
\$10でgymが使い放題になる。バスケ、卓球、テニス、ランニングマシンなど充実していた。土日にヨセミテに行くツアーに参加した。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
授業がキャンセルになった時も、すぐに代替りの授業を提案してくれたり、サポートはしっかりしていた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館は荘厳な雰囲気であって落ちついてた。Gymは上記のとおり。キャンパス内なら弱いところもあるがwifiが飛んでいる。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
非常に密度の濃い3週間だった。世界の中での日本人の立ち位置が分かり、働く前にこの経験ができて自分にとってプラスになったと思っている。言語の壁は間違いなくあったが、それを乗り越える為に必要な方法などを何となくかめた気がした。相手が伝えようとしている事の推測、話の論理、ユーモアは各国共通であり、これらのコミュニケーションスキルが言語の習得と同様に重要だと感じた。

②参加後の予定
他の国から来ている人に比べて、英語力。コミュニケーションスキルの不足を感じたので、この経験を無駄にせずに英会話、海外の友人との連絡を続けていきたいと考えている。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
日本で過ごす3週間とくらべて、はるかに濃い3週間を得ることができました。特に学生生活が残りがちな人は、この機会を逃さずに行くことよと思います。働き始めるとこんなに長い休みはないはずなので、学生生活を充実させたい人には絶好のチャンスです。そして、人・文化・など違う環境に放り込まれると様々なことを知って、気づくこともあるはずなので、何らかのモチベーションが生まれるはず。チャレンジ精神のある人には是非ともおすすめプログラムです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部文科三類・2年

参加プログラム: Berkeley Summer Sessions 派遣先大学: University of California, Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:未定) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

カリフォルニア大学バークレー校はカリフォルニア大学の中でも古い歴史をもつ世界屈指の名門校。アメリカ西部を中心とする名門公立大学の集まり「パブリック・アイビー」の一角。

参加した動機

英語を勉強するだけでなく、英語を使って勉強してみたいと以前から思っていたため、また長期留学をするかどうか決める上での土台になると思ったため。バークレーのサマープログラムには世界各国の学生が集まるということを知り、良い刺激になると思って参加しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

必要書類を確認し、早めに揃え始めましょう。TOEFLを受ける必要があるコースならば遅くとも3月、4月までには申し込んで受験してください。手続きに自信がない部分があったら適当に済ませず、国際交流課や International Office に確認しましょう。

授業はじっくり考えて選んだ方が良いですが、実際始まってから合わなくて変更している学生もいました。曜日や時間に気をつけましょう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F-1 ビザでしたが、I-20 の発行に時間がかかるので気をつけてください。大使館のホームページで必要書類を確認し、費用を払い、面接の予約をします。6月中旬からは面接が混み合い、予約がとれにくくなるのでなるべく早く手続きを済ませた方が良いでしょう。万が一間に合いそうになかった場合、対処法が載っているのでホームページを確認しましょう。面接自体は心配いりません。また、同じプログラムに参加する人たちと手続き状況の情報を共有することも大切です。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に何もありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大の生協で資料をいただき、AIU に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

前期教養学部の試験期間にかぶっていたものの、試験日程を確認したところ、特に問題はなかったので特に手続きはしませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

これといった準備はしませんでした。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

エッセイやプレゼンが授業の一環であるのでパソコンや iPad は必要です。クレジットカードは作っておきましょう。2個以上あると安心です。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Intensive practice in writing non-fiction (2 units)

City and community (1 unit)

2 単位の方は月～木 9:30～12:00、1 単位の方は月・水 14:00～17:00 でした。金土日が休み。

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

Non-fiction の授業はプログラムの開始前に Placement test でクラス分けがあり、私が入ったのは 17 人の上級クラスでした。グループディスカッションが多く、たくさん発言することになります。リーディングの宿題はほぼ毎日出され、週末にはエッセイの宿題があり、宿題にあてる時間は結構必要でしたが、終わらなくて焦るほどではありませんでした。

City and Community はリサーチやプレゼンに関する授業でしたが、それ以外にもロールプレイやパネルディスカッションがあって新鮮でした。

どちらも期末テストはありませんでした。

④学習・研究面でのアドバイス

かなり細かく何の宿題に対して credit がどれくらい、と決まっているので課題はすべてこなしましょう。何回欠席したら単位が来ない、というのも最初に説明されます。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

英語のレベルはクラスの中でもかなり多様でした。先生もアジアからの学生にとって英語が難しいことは理解していたので配慮はしてくれます。積極的にディスカッション等に参加しなければ単位が来ない授業もあるので、上手下手は気にせず、発言しましょう。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

私は大学からシャトルバスで 10 分ほど離れている Berkeley Lab Guest House というところに姉と二人で泊まりましたが、3週間で一人 14 万円近くかかりました。宿泊先は早くから探し始め、なかなか見つからない時は直接パークレーに連絡をとると良いでしょう。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

朝晩は冷えるので長袖は必須です。気温を確認しておいてください。交通機関としては電車、バスが使いやすいですが、特にバスは来る時間がわかりにくいです。大学の近くにカフェやレストランはたくさんあるので食事には困りませんでした。私はお金は2枚のクレジットカードを作り、一枚は宿泊先に保管、もう一枚を持ち歩いて使うようにしていました。チップのために細かい現金も必要です。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

八時半ごろに日が落ちると一気に暗くなるので夜は一人で出歩かない方が良いです。キャンパス内も夜は危ないようです。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃約 15 万円、授業料など約 15 万円、家賃約 14 万円、食費約 5 万円。その他に週末の観光代や交通費等。合計で 60~70 万円ほど。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

本部国際交流課から紹介のあった JASSO から 8 万円受給しました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

最初の週はウェルカムレセプションやオリエンテーションに参加すると授業と一緒にの学生以外にも知り合いができて良いと思います。週末はサンフランシスコやヨセミテに観光に行きました。泊まりで観光すると宿題を終わらせるのがやや大変になりますが、とても楽しいです。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

授業内での語学面でのサポートは十分にありました。レセプション、オリエンテーションなどによる生活面でのサポート体制も良いです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館に PC があり、プリントアウトもできます。やり方の説明は受けないので、遠慮せずに図書館にいるアドバイザーに聞きましょう。大学付近に食べられるお店がたくさんあるので食堂は混み過ぎはしません。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

アメリカの少人数の授業がどのようなものなのか知ることができました。その形が自分をどう成長させるのか、ということも少し理解したと思います。今までは周りに頼ってばかりでしたが、短期留学を決心してから、手続きをすべて行ったり、飛行機をとったり、など自主的に動くことができるようになりました。

また、語学面に関しても当然のことながら成長しました。生活のほとんどが英語に囲まれたもので、生活するための英語も、アカデミックな英語も、同時に身につけることができました。

②参加後の予定

後期教養学部に進学予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

パークレーの短期留学では、たくさんの人と出会えます。短い間しか一緒に勉強しませんが、これから先にまたどこ

かで会いたいと思える友達を作ることができます。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部/文科三類 2年

参加プログラム: Berkeley Summer Sessions 派遣先大学: カリフォルニア大学バークレー校

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

カリフォルニア大学システムの中で最も古い州立大学。3週間の Session E に参加しました。

参加した動機

英語力、特にスピーキングの力を伸ばしたかったため、また、せっかくなので長い夏休みを使って留学したかったため、参加することになりました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類を集めて東大に提出します。その後はオンラインでの手続きになります。とにかく早めに手続きを始めた方がいいです。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F-1ビザで渡航しました。大使館の予約を早めにしましょう。SEVIS Fee を払うタイミングを忘れずに。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

生協でパンフレットをもらった AIU の海外留学保険に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

試験がかぶらなかったので、何もませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

特別なことはしていません。英語のドラマや映画を見て少し耳をならしたくらいです。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

パーカーや長袖の服。予想以上に寒かったです。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Intensive Practice in Writing Non-fiction

City and Community

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

毎日読書課題が課されました。宿題は日本に比べて多いです。授業はディスカッションが多く、自ら発言することが求められました。週末はエッセイを書く宿題が出ました。

④学習・研究面でのアドバイス

周囲の発言力・プレゼン力はすごいです。でもそれに圧倒されずに、なるべく発言しなければ意味がありません。そのためには前の方の席に座った方が良かったと思います。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

授業内でも授業外でも、他の国から来た人の英語のアクセントがかなり聞き取りにくかったです。絶対に怒らないのでわからなかったら失礼なく聞き返しましょう。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

I-house はもういっぱいだったので International Office にメールして教えてもらった Berkeley Lab Guest House に泊まりました。少し高く、シャトルバスが不便ですがとても快適でした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

本当に寒いです。バスはただで乗れるし、BART も良いですがどちらもストライキを起こす可能性があります。タクシーはあまりおすすめしません。クレジットカードは2枚持ちました。チップのために常に1ドル札が必要です。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は良くないです。夜は一気に暗くなるので、絶対に一人で出歩くのは危険です。また、特に治安が悪いところ(リッチモンドなど)もあるので、治安を調べてから行くのが良いと思います。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

70万円程度(航空費15万、授業料12万、家賃14万、食費5万、その他に観光費、お土産代など)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

必ず紹介される JASSO の基準を満たしたので、8万円受給しました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末はサンフランシスコやヨセミテ国立公園を観光しました。宿題との両立がやや大変ですが、行く価値あります！ツアーの予約は早めにしましょう。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

勉強面ではクラスの先生がしっかり見てくれるし、相談しやすい環境です。生活面では特にサポートはないので、自分でしっかりしなければなりません。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は印刷のためによく使いました。PC はたくさんあり、それほど混んでいなかったの使いやすいかったです。図書館でも学食のような場所でも、自分でお金を入れた学生証が使えるので活用しましょう。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

自分のとっていた授業に日本人があまりいなかったこともあり、授業内外で英語を使うことができました。Writing の授業では、自分の書いたエッセイに先生から細かくフィードバックをいただくことができ、本当に貴重な機会だったと思います。その他にも、海外で暮らすことに関しても少し学べてよかったです。

②参加後の予定

後期教養に進む予定なので、今後も大学にいる間にもう少し長い留学も考えていますが、まだはっきりとは決めていません。もしできたら長期もしたいな、と思っています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

短期留学を通して、英語だけでなく様々な面で成長することができます。手続きだけをとっても学ぶことがたくさんありました。さらに、留学を通して海外に友達ができるので、今後海外に出やすくなります！ちなみに、もし参加することになったら、東大から参加する他の学生とのコミュニティをしっかり作っておくことを強くおすすめします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Summer Sessions のホームページをひたすら読み込みました。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

クラス写真



東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部文科二類2年

参加プログラム: Berkeley Summer SessionE

派遣先大学: UC Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

<http://berkeley.edu/index.html>

参加した動機

入学当初から出来るだけ早い時期に短期で留学をしようと考えていたためです。イェール大学のプログラムも考えましたが、テスト期間等を考慮してこのプログラムを選択しました。3、4年時に長期の留学も視野に入れているため、その前段階として参加しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

出来るだけ早く手続きをすませるの何よりもおすすめです。確か2月の後半から申し込みができたと思いますが、人気のある授業は早めに埋まってしまうので注意が必要です。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F-1 ビザをとりました。ビザの申請に際して様々な書類が必要となるのでこれも早めの準備が必要です。僕は書類を集めるのから実際にビザがとれるまで一ヶ月半から二ヶ月くらいかかったと思います。(もうちょっと早くできたかもしれませんが) 大使館の面接日程にも注意してください。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

定期的な歯科検診を行ったくらいです。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIU の短期留学用保険に加入しました。幸運なことに何も使う機会がなかったので、よかったかどうかは分かりません。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

学部の1、2年生にとって留学を妨げる一つの要因がテストとの兼ね合いだと思います。今年の Berkeley のプログラムは7月28日スタートということではほとんどのテストは問題なかったのですが、語学のテストだけは日程がかぶってしまい、教授に相談して繰り上げで試験を受けさせてもらいました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

2月の段階で自分の語学力に全く自信がなかったので、オンラインの英会話と個人経営の英会話学校に通いました。オンライン英会話は値段も安いので良いと思います。最低限の語学力は身に付いたと思います。ただ良く言われているように英会話学校は高いのでそこまでおすすめはできません。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

泊まる場所によってはドライバーがついていないので持っていくと便利です。あと自分のノートパソコンを持っているとプレゼンの準備とかがしやすく良いと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

ESL6 Listening&Speaking (週4日)

ESL7 American culture through the media (週2日)

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

正直に言っただいぶきつかったです。プログラム前半は予習で文章を読む or リスニングをして、授業中はディスカッションというのがほとんどです。特に Listening&Speaking の方は毎日大量の宿題が出て死にそうでした。後半の一週間半でプレゼン4つは自分の中で初めてとっていいほど過酷な宿題でした。コース、教授ごとに差はあると思いますが、同じプログラムで行った他の人たちもかなり辛そうでした。

④学習・研究面でのアドバイス

必死に食らいつくこと。宿題等かなりハードですが、三週間しかないのでゴールが見えているし少しくらいの無理はできるはず。宿題の内容をネット上にあげてくれない場合もあるので、分からない場合は友達や教授に聞くと良いです。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

ディスカッションでも日常会話でもなかなか表現が上手く出来なかったです。自分の言いたいことは伝えられましたが表現力不足を痛感しました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

行く前にもっとも苦労したのが宿探しです。2012年度の参加者はI-Houseに宿泊できたようですが、今年はほとんど空きがなく東大からSessionEで参加した人は誰も予約できませんでした。僕は7月まで待ちましたがダメで結局地元のレンタルハウスを借りました。Airbnbというサイトで探し予約をとりました。

<https://www.airbnb.jp>

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

夏とは思えないほど涼しく快適な気候でした。日射しが強い分あつく感じますが日中でも25度に行くか行かないかぐらいの気温です。夜などはむしろ寒く長袖が必須です。キャンパスも広いかにも学生街と行った感じの街並ですばらしい環境でした。学生証を持っているとバスが無料で乗れますし、食事に関しても多種多様なレストランがあるので飽きないと思います。クレジットカードがほぼどこでも使えるので一枚もっていき、現金は5万円ほどを分けて管理していました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

Downtown Berkeleyの駅前などは浮浪者も多く少し怖い面もありますが、おおむね治安は良いと思います。僕が泊まっていたキャンパスの北側は中高級住宅街で夜でもそれほど心配はいりませんでした。が、あまり夜遅くに出歩くのはやはりお勧めしません。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券16万、授業料19万、宿代約15万、食費・娯楽費等10万。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOの奨学金8万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

平日は宿題に追われていましたがその分週末は遊びました。サンフランシスコを回ったり、一泊二日でヨセミテへのツアーに参加したりしました。

運動したい場合は学内のジムが10ドルで使い放題になるので便利です。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

授業自体が第二言語として英語を学ぶためのプログラムなので、先生たちも極力易しい英語を使っているように思いました。周りにいる学生も英語が母国語ではないので、圧倒的な差は感じませんでした。先生と一対一でコミュニケーションもとりにやすいですし、メール等で質問もできたので良かったです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館・教室等、通年の生徒と同じ施設が使用でき、素晴らしい環境でした。図書館は複数あり混雑することもないので良かったです。唯一プリンターとコピー機に関しては使い方が良く分からず、外のコピーセンターをよく使っていました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

課題が多く勉強量も膨大でしたが、それだけに充実感を得られた三週間でした。たった三週間で英語の能力が格段にあがることはありませんが、他国の同世代の人たちと一緒に勉強する中でもっと勉強しなくては、というモチベーションを得ることが出来ました。これが一番大きな成果だったと思います。また自分にとって海外で三週間も生活するのは初めての経験だったので、自分でもどうにか暮らしていけるという自信を持つことが出来ました。

②参加後の予定

今回の経験をふまえて3・4年時に長期の留学をするかどうか検討します。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学はしてみたいけど、長期の留学はちょっと…と思っている人に最適なプログラムだと思います。アメリカトップクラスの大学で授業を受けることの出来るまたとない機会です。環境も素晴らしいですし、ぜひお勧めします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

UC Berkeley Summer Session のサイトが充実していたのでよく読みこみました。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 経済学研究科 修士 2 年

参加プログラム: UCB Summer Session

派遣先大学: The University of California at Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

世界名門の一つである UC Berkeley は San-Francisco から少し離れた Berkeley 地域に強大なキャンパスを持つ世界最先端の研究が行われている。

参加した動機

単純ではあるが日本風とは違った学風を大学入学時点から感じたかった。つまり、先生と学生としてじゃなくお互い一人の人間として議論できる日本では滅多にない環境で勉強したい夢を実現したかった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

すべてオンラインで行われるのでかなり余裕を持ってやらないと締め切りに間に合わない。その故に、自分の入りたいクラスが人数制限で埋まってしまうのでとにかく早くやるべし。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

4単位以上の授業を登録すると学生ビザ(F1)が必要になる。ビザを申請するにはUCBから送られてくるSEVIS NOが必要で、プログラムの参加手続きが終わってから14日間で届くとUCBのサイトに書いているのだが、私の場合5日間で届いた。6月、7月が日本の大学などの夏休み前でビザ申請者が多く、思い通りに予約出来ないの注意してください。私の場合、運がよく誰かがキャンセルした直後に予約できてよかったです。またSEVIS NOが届くのを待ち切れない場合はUCBの職人にメールで依頼すると貰えます。ビザ手続きもオンラインでほぼ1時間で済んだ。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

私は特に医療関係は気にせず、たまに服用している喉薬だけを持って行った。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

日本では保険に入らなかったです。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

所属研究科に書類を提出し、参加の認定をもらい、履修していた2科目のレポートを先生と相談し、1枚は前倒しで、もう1枚はUCBにいた時にオンラインで提出した。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

アメリカ行く前にTOEFL iBTを受けたそのまま行ったが、やはりネイティブ人のレベルにはまだまだであることを実感した。しかし、同じプログラムに参加している学生とは無理なく話せた。TEDなどが聞き練習になると思う。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

気候は日本よりからったとして涼しいので、少し暖かい服を持って行けば良いだろう。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

Non Fiction Creative Writing

Business Vocabulary

②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

基本的に英語上達のプログラムで、私が参加したのは Non Fiction Creative Writing と Business Vocabulary である。朝のクラスは作文を書き、昼のクラスはビジネス環境で起こる様々な出来事を取り上げ議論し、それに纏わる語彙を覚える。

④学習・研究面でのアドバイス

宿題など比較的少なく、さらに金曜日の授業がないので楽だった。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

他国からの参加者の話は分かりやすかったが、やはりネイティブ人の話が早すぎて分かり難かった分もある。時間立つにつれ段々耳がなれてくるのですが、自分から努力しないと英語はどこ行っても上達しないと思った。私の場合宿題を提出して、ホテル近くのスターバックス、スポーツバーなど行って出来るだけネイティブ人と会話をした。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

私は インターネットで学校近くのホテルをすべて検索し YMCA というところで泊まった。料金もわりと安く(一泊 54 \$)、共通キッチン、洗濯機、パソコンなど使える。BART の Downtown Berkeley 駅から一分ぐらいで、本当にいい所だ。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は本当に過ごしやすかったとした涼しい。交通機関は学生証に貼られた AC のシールを見せれば AC transit のバスに無料で乗れる。San Francisco まで無料バスでいけるが私がいつも BART を利用していた。食事は大学の提供している食事プランに入れば学生食堂で(Buffer 式)一食 7\$ で食べられるがいつも食べると飽くので、私は退学近くのメキシカン・インド・イタリアン・タイ料理を結構楽しめた。殆ど一食 7-9\$ だった。大きい買い物はクレジットカードですませたほうが良い。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

9時以降は集団で行動したほうが良い。(中国からの2人の女子学生が銃を持った二人の黒人に強盗された事件があった。)

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃が15万円(往復直行便)、授業料が23万(2405ドル)、家賃が約1300ドル、食費が約600ドル(3週間)、交通費が約80ドル、娯楽費が約400ドルぐらいだったと記憶している。良く検索して、早めにチケットを予約すれば10万ぐらいで入手できると思う。IHOUSE という学生寮があるのですが、家賃がもっと安いと思います。私は 3 週間という短期だったため予約出来なかった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

FOTI から 4000ドルの奨学金を頂きました。このプログラムの参加者がある程度の GPA 水準を満たしたら JICA から 16 万円の奨学金を貰えるのですが、私の場合は国費留学生ということで枠外だった。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

宿題は比較的になじめだったので、帰宅したらすぐに完成させ、提出してから外出し、San Francisco の写真撮影に行ったり、友達とゲーム見にいったりしていた。週末が 3 つしかなかったので、できるだけ周辺の観光スポットなどを積極的に楽しめた。国際免許を取って行くとかかなり便利で、レンタカーも借りられて Silicon Valley, Yosemite National Park や様々なところに行ける。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

英語での会話が自身のない方は少しでも準備した方が良さだろう。授業には積極的に参加し、出来る限りの知識や情報を吸収するつもりでいた方が良い。生活面では、日本とは違ってコンビニがないが、WALGREEN という店が散らばっていて、生活に必要なものは殆ど揃っている。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

UCB の図書館は世界で誇る倉庫を持っている。スポーツジムは 10ドルは一学期通して無料で使える。食堂は Buffet 式で一食 7ドルで日本よりかなり豊富なものが揃っている。PC はどこの図書館でも使えるが、学校内では Wifi があるので出来れば自分の PC を持っていくことがお勧め。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

今度の留学は修士後の進路を決断する上でかなり役立ったと思う。留学を通して英語の会話力は勿論のこと、コミュニケーション力もリーダーシップも成長を挙げたと感じている。さらにアメリカだけでなく、他の参加者たちの文化、生活に対する関心も高まった。もっと重要なのは、クラスメートや先生と末永く続くフレンドシップを作れたことだと思う。

②参加後の予定

アメリカのビジネススクールの MBA プログラムに参加する。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

人生に一回しかない貴重な体験を得るので、是非とも参加してほしい。6 週間のプログラムをお勧めする。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

Group photo with Business Vocabulary classmates

